

伊万里に 移住しよう。

伊万里市移住・定住促進事業

● 問合せ

移住・定住・婚活応援課移住・定住推進係 ☎0958-2172

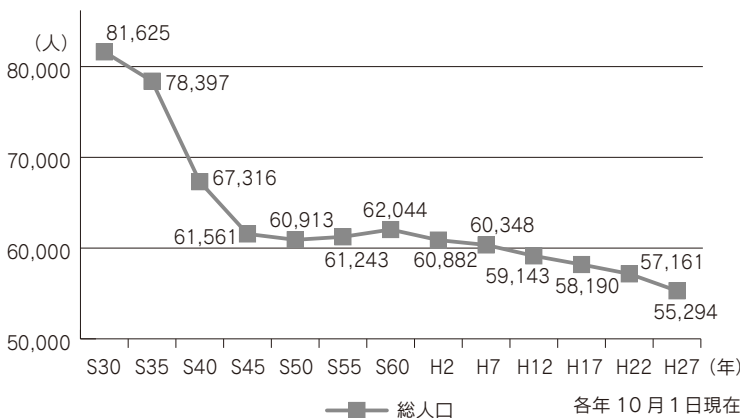
今、日本は急速に少子・高齢化が進み、人口が減少しています。また、特に地方では、都市部への流出による人口の減少が問題となっており、伊万里市も例外ではありません。この問題に対し、市ではさまざまな施策が行われています。今回は、その中でも移住・定住の取り組みにスポットをあて、伊万里へ移住したいと思ってもらえるような魅力あるまちにするために、わたしたちに何ができるのかを考えます。



このままでは伊万里市が危ない 人口の推移と現状

昭和 29 年に 2 町 7 村が合併して誕生した伊万里市。炭鉱のまちとして栄え、昭和 30 年の人口は 81,625 人にもなりました。しかし、国のエネルギー政策の転換に伴う炭鉱の相次ぐ閉山により、昭和 45 年には 61,561 人まで急激に減少。平成 27 年は 55,294 人となっています【表 1】。この減少傾向は今後も続くことが推測されています。また、平成 27 年の自然動態（出生数・死亡数）をみると、死亡数が出生数を上回り、225 人の自然減となっています【表 2】。社会動態（転入・転出）は、転出が転入を上回り、289 人の社会減となっています【表 3】。

【表 1】 人口の推移



【表 2】 平成 27 年の自然動態（出生数・死亡数）

出生数	死亡数	差
490 人	715 人	△ 225 人（自然減）

【表 3】 平成 27 年の社会動態（転入・転出）

転入	転出	差
1,508 人	1,797 人	△ 289 人（社会減）

人口が減るとどうなる？

- ▷ 労働人口の減少や消費の縮小による経済活動の低下
- ▷ 地域を構成する若者の減少による地域コミュニティの衰退
- ▷ 税収減によるインフラ整備の遅れや住民サービスの低下

地域が維持できなくなります



このような状態にならないように、将来を見据えたさまざまな取り組みが重要となります。

次ページでは、人口減少に歯止めをかけるための市の取り組みをみていきます

人口減少に歯止めをかけるために

『市人口ビジョン』と『市まち・ひと・しごと創生総合戦略』

市は、平成27年10月に『市人口ビジョン』と『市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定しました。人口の将来展望を踏まえた当面の目標は、若い世代を中心として、転出が転入を上回っている状態を解消することです。これを達成するため、4つの基本目標を設定し、そのそれぞれに対して実施すべき具体的な施策を挙げています。

【4つの基本目標と施策】

基本目標1. 産業振興により『活気あふれるまち』をつくる

▷ 施策：地域産業の競争力強化

基本目標2. 地域資源を生かし『行きたいまち』をつくる

▷ 施策：観光分野での交流人口の拡大、**移住など定住対策の推進**、高等教育機関との連携

基本目標3. 市民みんなで『子育てしやすいまち』をつくる

▷ 施策：妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、男女協働参画社会の構築

基本目標4. 時代に合った都市づくりで『安心で住みたいまち』をつくる

▷ 施策：医療体制の確保、ふるさとづくりの推進、住民が地域防災の担い手となる環境の確保、地域連携による経済・生活圏の形成、地域における身近な移動手段の確保

移住・定住対策は、基本目標2に位置づけられています



移住・定住への取り組み①

伊万里を『知る』ことが第一歩

移住・定住の取り組みは、まず伊万里のことを知ってもらうことから始まります。プロモーション事業の実施や移住体験住宅の提供、住まい情報の提供を行うことで『知る』ことをサポートします。



プロモーション事業

市外の人に伊万里市を移住地として検討してもらうため、自然環境の良さや暮らしやすさなど、魅力を多くの人に伝えていくことが重要です。そこで現在、市の魅力を紹介するプロモーション映像を作成しています。また、都市部で開催される移住相談会に参加し、市の魅力や暮らしについてのPR活動を行っています。

移住体験



↑ 東京都で開催された九州・沖縄合同移住フェアに出展

移住する前に、市の風土や日常生活を事前に知ってもらうことも大切です。移住を希望している人に伊万里市での生活を体験してもらうため、移住体験住宅が利用できます。

◆ 移住体験住宅概要

● 構造 木造セメント瓦ぶき平屋建て（2棟）

● 設備 家電、日用品備え付け

● 利用料 無料（2泊から3泊まで）



↑ 移住活動の拠点として利用できる移住体験住宅

住まい情報の提供（空き家情報バンク制度）

移住を希望する人への住まい情報の提供と空き家を有効活用するため、平成29年1月4日から『空き家情報バンク制度』を開始します。

この制度では、空き家の売却や賃貸を希望する所有者が、協力事業者（市と協定を締結した市内の宅地建物取引業者）を通じて『空き家情報バンク』に『物件を登録します。市は、物件情報をホームページに掲載して、空き家を購入したい人や借りたい人に情報を提供します。』

移住・定住への取り組み②

『住む』、『働く』を支援

せっかく伊万里を気に入っても、「住まいをどうするか」、「仕事をどう見つけるか」などの問題が立ちはだかります。そんな人を後押しし、地域になじんでいくための体制づくりを進めます。



移住・定住奨励金

移住する人に対し、経費の一部を支援し移住・定住を促進することを目的に、移住・定住奨励金制度を開始します。

◆奨励金制度概要

- **実施期間** 平成28～30年度
- **申請開始** 平成29年1月
- **対象**
 - ▽申請者または配偶者のいずれかが40歳未満の世帯
 - ▽3年以上市外に住んでいた人で、新たに転入した世帯
 - ▽伊万里市に永住の意思を持って5年以上居住する人

地域おこし協力隊

人口減少や高齢化が進む中、活力ある地域を作っていくためには、都市部から新たな発想と機動力を持つ人材を積極的に呼び込む必要があります。地域おこし活動を通じて地域への定住や定着を目的に、『地域おこし協力隊』の隊員を募集します。

三大都市圏をはじめとする都市地域に住んでいるみなさんの家族や知り合いで、伊万里市での地域おこし活動に興味がある人や、移住を考えている人はいませんか。

◆マイホーム購入奨励金

市外に住む子育て世帯や新婚世帯などの転入を支援します。

- **対象世帯** 平成27年10月1日以降に転入した世帯
- **対象住宅** 平成28年10月1日以降に購入した住宅
- **奨励金額**
 - ▷新築住宅購入 住宅・土地購入費の1/2 (限度額100万円)
 - ▷空き家情報バンク登録物件購入 住宅・土地購入費の1/2 (限度額30万円)

◆空き家リフォーム奨励金

市外に住む子育て世帯や起業家などの転入を支援します。

- **対象世帯** 平成27年10月1日以降に転入した世帯
- **対象住宅** 空き家情報バンク登録物件
- **奨励金額**
 - ▷住宅リフォーム 空き家リフォーム費の1/2 (限度額30万円、購入物件に限る)
 - ▷起業用リフォーム 空き家・空き店舗リフォーム費の1/2 (限度額50万円、購入・賃貸物件)

◆賃貸住宅入居奨励金

市外に住む市内通勤世帯や新婚世帯などの転入を支援します。

- **対象世帯** 平成28年10月1日以降の転入世帯
- **対象住宅** 平成28年10月1日以降に契約締結した市内の民間賃貸住宅
- **奨励金額**
 - ▷賃貸住宅入居 月額家賃の1/3×最長24月(限度額2万円)

◆募集概要

- **対象** 20歳以上40歳未満
 - ▽三大都市圏をはじめとする都市地域に在住し、採用後伊万里市に住民票を移すことができる人
 - ▽任期終了後、伊万里市で起業、就職などにより定住する意思がある人
 - **活動内容** 移住・定住などに係る支援活動
 - **身分** 非常勤嘱託職員
 - **任期**
 - 平成29年4月1日(土)～
 - 平成30年3月31日(土)
- ※1年更新で最長3年まで再任可能

●勤務日・時間

- **原則** として月曜日～金曜日 午前8時30分～午後4時30分
- **報酬** 月額17万円(社会保険料本人負担分含む)
- **募集人数** 2人
- **応募方法** 応募用紙と住民票抄本を移住・定住・婚活応援課まで提出
- **募集期限** 12月26日(月)



地域おこし協力隊として働きながら、起業の準備や仕事探しもできます。

◆地域おこし協力隊の仕事内容◆

- ①空き家有効活用の企画・立案活動
- ②移住者支援体制の構築
- ③移住・定住に関するイベントの企画・実行
- ④プロモーション映像を活用した情報発信
- ⑤ホームページやSNSなどの各種メディアを活用した情報発信
- ⑥ITを活用した起業・就業支援

移住者を温かく迎え入れるために『住みたいまち』をつくる

前のページまでは、市の移住・定住対策をみてきました。しかし、『住みたい』と思ってもらえるような魅力あるまちでなければ人は集まりません。そのためには何が必要なのでしょう。



私たちができること

移住・定住を進めていくためには、移住者を温かく迎え入れる体制を作ることが大切です。よそ者扱いするのではなく、早く地域になじんでもらえるような必要なサポートをしましょう。

また、「伊万里は何もなか」ではなく、「〇〇もある」、「〇〇もある」と良いところを見つけたことも重要です。伊万里の『当たり前』が他の地域ではそうではなく、とても魅力的なものかもしれません。私たち市民が伊万里の魅力を再発見し、どんどん発信していきませんか。

移住者に聞いてみよう

程よいスローライフが気に入っています



のりみち
井川 範道 さん
ゆきこ
幸子 さん (松島町)

profile 平成26年4月、福岡市から移住し、新天町に『井川歯科』を開業。6歳の子どもと3人暮らし。移住者ならではの視点で、ブログなどで積極的に伊万里の情報を発信しています。今ではすっかり『伊万里もん』。

井川歯科ブログ
<http://igawa-dc.com/blog/>

開業の場所を探していて、近隣のまちなども検討していました。伊万里に着いた時、町並みがきれいで、歴史を感じるところがあり、第一印象がとても良かったのを覚えています。

実際に住んでみての印象は、生活に必要なものは一とおりそろっており、子育てもしやすいと感じています。山も川も海もあるまちは意外と少ない。地域の祭りなどイベントもたくさんあり、休日も楽しく過ごしています。福岡市からも思っていたより近く、『程よいスローライフ』が送れるまちです。

ただこれらのほとんどが、住んでみて初めて分かったことです。情報は主にインターネットで調べますが、検索してもあまり出てこない。もっとたくさんの人が情報発信をうまくやっていたら、伊万里の魅力がより伝わるのではないかと思います。

行政と市民が一体となった取り組みを



政策経営部
移住・定住・婚活応援課
課長 多久島 功

市は、地方創生の取り組みの一環として、4月に『移住・定住・婚活応援課』を新たに設置しました。人口減少を抑制し、人口増を図るためのさまざまな施策を行っています。

主なターゲットは、20代から30代の若者や子育て世代および市内へ通勤する市外居住者です。市外から移住者を呼び込むためには、当市の魅力を全国に向けて情報発信し、効果的にPRすることが重要です。市のまちづくりの理念は、『住みたいまち伊万里、行きたいまち伊万里』です。文字どおり『住みたい、行きたい』と思ってもらえるような『まち』になれば、移住者も増えるのではないかと思います。そのためにも行政も一層力を入れていきますので、市民の皆さんもフェイスブックやツイッターなどで、伊万里の良さを情報発信しPRしていただくようお願いいたします。市の将来発展のため、人口増加に向けて行政と市民が一体となって取り組んでいければと思います。ご協力よろしく願います。